

平成30年度 生活・自立支援キャンプ 「チャレンジあいよ夢ジュニア」 ～新緑の春山を歩く～



チャレンジあいよ夢ジュニア (趣旨)

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

1. ねらい

新緑の曽爾高原を舞台に豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

5月3日(木)～5月5日(土) 2泊3日

3. 対象者 (参加施設)

奈良県内の児童養護施設入所児童
(4施設/奈良県内児童養護施設6施設)

4. 参加者 / 募集定員

40名 / 30名

- 2年生2名、3年生7名、4年生12名
- 5年生10名、6年生9名

5. プログラム (要約)

本事業は、奈良県内の児童養護施設に入所する児童を対象に、「春」の豊かな自然環境の中、登山や野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、集団宿泊体験や規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。また、施設間交流を図るため、施設の壁を取り払った異年齢のグループを編成し、仲間作りやコミュニケーションの充実を図った。さらに、就寝や食事については自施設の仲間と過ごし、子どもが安心して過ごせる時間を確保した。

スケジュール

【5月3日(木)】

アイスブレイク
そにとつビンゴ
カプラ

【5月4日(金)】

春山登山(俱留尊山)
フィールドアスレチック
「あいよ」プログラム、ナイトハイク、星空観察

【5月5日(土)】

野外炊事(ちゃんこ鍋)

【1日目:5月3日(木)】



開会式後、アイスブレイクを行い参加者同士の交流を図った。初めは緊張していた子供たちも、交流ゲームを通して徐々に笑顔がふれ、他施設の仲間との関わりも増えていった。その後、そにとつビンゴや登山準備等を行いながら、さらに仲間との交流を深めた。

【2日目:5月4日(金)】



メインの活動でもある「登山」は体力や学年を考慮して、施設をミックスした4つのグループを作り、俱留尊山を目指した。互いに励まし合い、声をかけ合いながら、全員元気に登頂できた。下山後、ふりかえり等を行い、「フィールドアスレチック」や「あいよプログラム」で、楽しんだ。最後、就寝前にみんなで亀山のふもとまでナイトハイクをし、満天の星空を眺めた。

【3日目:5月5日(土)】



最終日の朝、部屋の掃除等を行い、昼食作りは、野外炊事で、各施設協力しながら「ちゃんこ鍋」を作った。「自分たちで作ったからおいしい!」「作るの楽しい!」など、普段とは違う環境や生活、関わりの中で、それぞれに楽しみながら、活動することができた。

6. まとめ

登山、野外炊事などの自然体験や自然の家での生活体験を通して、自然の素晴らしさやチャレンジすることの楽しさ、仲間と助け合うことの喜びを一人ひとりが感じることのできた3日間となった。

参加者からも「他の施設とも仲良くなれた」「登山で頂上まで行けて嬉しかった」など喜びや達成感を感じられた感想が聞かれた。

(企画指導専門職 岡野 ころろ)

平成30年度 生活・自立支援キャンプ 「チャレンジあいよ夢ジュニア」 ～冬の三峰山に挑む～



チャレンジあいよ夢ジュニア（趣旨）

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

1. ねらい ～白銀の三峰山に挑む～

冬山を舞台に、豊かな自然の中で様々な体験を通して大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

1月18日（金）～1月20日（日） 2泊3日

3. 対象者（参加施設）

奈良県内の児童養護施設入所児童
（5施設／奈良県内児童養護施設6施設）

4. 参加者／募集定員

23人／30人
（小学生：20人 中学生：3人）

5. プログラム（要約）

本事業は、奈良県内の児童養護施設に入所する児童・生徒を対象に、「冬」の寒さ厳しい自然環境の中、雪山登山や雪遊びなど、様々な自然体験活動を通して、集団宿泊体験や規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施している。

また、施設間交流を図るための活動（あいよプログラム）では、楽しく過ごす方法自分たちで考える自主的な活動を行い、仲間作りやコミュニケーションの充実を図った。就寝や食事については、自施設の仲間や引率の職員の方と過ごし、子どもが安心して過ごせる場所と時間を確保した。



スケジュール

1月18日（金）

始まりの会

登山準備

1月19日（土）

冬山登山（三峰山）

ふりかえり

カプラ

1月20日（日）

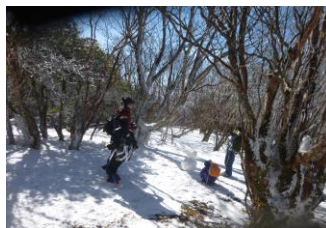
「あいよプログラム」（館内クイズウォークラリー、ドッジビー）

終わりの会

【1日目】1月18日（金）

各施設が到着後、始まりの会を行って、これから一緒に過ごす仲間とあいさつを交わすとともに、あいよのめあてを確認した。それから、アイゼンの装着練習、クッカーの練習などを行った後、早めに就寝し、翌日の登山に備えた。

【2日目】1月19日（土）



2日目は、三峰山登山に挑戦した。天気にも恵まれ、穏やかな天候のもと、互いに励まし合いながら、全員無事に登頂して、山頂では、見事な霧氷を見ることができ、雪合戦も楽しむことができた。

下山後は、ゆったりと温泉に入り、夜は、登山のふりかえりをした後、カプラに取り組んだ。他施設の仲間と協力しながら、それぞれ思い思いの形を積み上げた。

【3日目】1月20日（日）



最終日の午前中は、「あいよプログラム」を実施した。前半は、雨のため、予定を変更して館内でのクイズウォークラリーを実施した。施設の枠を越えた5グループに分かれたウォークラリーでは、上級生の子が下級生の子に声をかけながら協力して活動することができた。

後半は体育館でドッジビー・卓球・バドミントンなど職員も一緒に入って盛り上がった。みんながルールを守って遊ぶことで、楽しい雰囲気にも包まれ、他施設の友だちとも楽しく交流することができた。

6. まとめ

みんなで協力し励まし合いながら、冬の大自然の厳しさに立ち向かい乗り越えたことで、素晴らしい景色に出会い、達成感を得ることができた。参加者から、「登山ではとてもしんどかったけど、山頂まで行けて良かった。」「来年も絶対に参加したい。」「あいよプログラムで他の施設の人と一緒に遊べて楽しかった。」などの感想が聞かれた。

（企画指導専門職 曾和 良友）

平成30年度 生活・自立支援キャンプ 「曾爾わくわくキャンプ」



曾爾わくわくキャンプ (趣旨)

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

2. ねらい

秋の曾爾高原を舞台に豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

10月20日(土)～10月21日(日) 1泊2日

3. 対象者 (参加施設)

聖マッセヤ子供の家

4. 参加者 / 募集定員

22人 / 30人

- 小学生8人(1年生1人、2年生1人、3年生1人、4年生1人、6年生4人)
- 中学生11人(1年生4人、2年生4人、3年生3名)
- 高校生3人(3年生3人)

5. プログラム (要約)

本事業は、津市の児童養護施設に入所する児童を対象に、高原のすずきが見頃を迎える「秋」の自然環境の中、フィールドアスレチックや野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、集団活動を通じて規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。また、野外炊事では、異年齢の班を編成し、仲間作りやコミュニケーションの充実を図るとともに、達成感や自己肯定感を養うプログラム構成とした。

スケジュール

10月20日(土)

- ・開会式
- ・フィールドアスレチック
- ・選択プログラム(バドミントン、卓球、カプラ、焼き板)
- ・ナイトハイク
- ・星の話、天体観測

10月21日(日)

- ・野外炊事
- ・閉会式

【1日目】

開会式後、お亀池周辺散策とフィールドアスレチックを予定していたが、天候不良のため予定を変更し、屋内での活動を行った。はじめに全員でバドミントン、卓球、ボール遊びを楽しんだ後、焼き板やカプラ、屋内スポーツの中から活動を選択し、それぞれが楽しむ方法を考え活動した。その後、天気が回復したため、フィールドアスレチックを行った。小学生の子たちは、中高校生の子に助けをもらいながら、難しいものにもチャレンジするなど、それぞれの発達段階に応じて目いっぱい楽しむことができていた。夜はナイトハイクに出かけ、冷たい風を肌で感じながらお亀池の「山灯り」の中を虫の声に耳を澄ましながらい歩いた。ナイトハイク後、天体観測を行った。当日は講師の方に来ていただき、秋の星の話を聞いた後、天体望遠鏡で月の表面や土星の輪を観ることができ、子どもたちからも歓声が上がっていた。



【2日目】

午前中、野外炊事でカレー作りを行った。班で役割を分担し、薪割りをしたり野菜を切ったりするなど、みんなで協力しながら調理をしていた。また、野外炊事の経験がある高校生が、中心になって安全に活動できるように小さい子に声をかけながら、率先して活動できた。



6. まとめ

山・星など、様々な自然に直接触れることで、子どもたちは常にいきいきと活動をしていた。また、普段なかなかできない体験をたくさんすることができ、同じ施設で過ごす子どもたちであっても、新たな一面を発見することができる良い機会となった。

(企画指導専門職 曾和 良友)